

第1205回経営委員会議案

(議決事項)

平成26年 1月14日

平成26年度国内放送番組編集の基本計画について

平成26年度の国内放送番組の編集については、別冊のとおり基本計画を策定したので、定款第13条第1項第1号クの規定により議決を得たい。

(別冊)

平成26年 1月14日

平成26年度

国内放送番組編集の基本計画

(案)

編集の基本方針

平成26年度は「豊かで安心、たしかな未来へ」を掲げた3か年の経営計画の最終年となります。NHKは、正確・迅速で公平・公正な報道や見ごたえのある番組を視聴者に届け、NHKでしか見られない、人々の心を豊かにする魅力にあふれた放送の実現を目指します。

いま日本は、経済の再生や財政の立て直し、少子高齢化への対応、そして複雑化する国際関係など、多くの課題を抱えています。一方で、2020年（平成32年）のオリンピック・パラリンピックが東京で開催されることが決定するなど、日本国内に明るさも見えています。

平成26年度国内放送番組の編集にあたっては、日本が抱える課題を乗り越え、豊かで安心して暮らせる社会を実現するために、正確・迅速な報道で国民の生命と財産を守るという公共放送としての使命達成に引き続き全力で取り組みます。そして、「深い取材に基づくニュースや番組」「心に残る番組」「世代を越えて楽しめる番組」など、報道から娯楽まで多彩な編成で、幅広い視聴者の支持と共感が得られる豊かな放送を実現します。

平成27年3月には東日本大震災発災から4年となります。被災地の復興を支援し、課題を掘り下げる番組に引き続き取り組んでいきます。全国の放送局は、地域に密着した情報を伝え、地域の再生や活性化に貢献する番組を制作します。

さらに、世界に通用する質の高い番組を制作し、世界に情報を発信、NHKの存在感を高めていきます。夏には、サッカーワールドカップ ブラジル大会が開催されます。多彩な番組で熱戦の模様を伝え、日本中に感動を届けます。

インターネットの拡大などメディア環境が大きく変化する中、平成26年度末、NHKは放送開始90周年を迎えます。NHKに対する長年の信頼を大切にしながらハイブリッドキャストやスーパーハイビジョンをはじめとする次世代の放送サービスに取り組みます。人にやさしい放送・サービスも拡充し、新しい時代の公共放送を創り上げていきます。

編集の重点事項

1. 国民の生命と財産を守る正確で迅速な報道

自然災害の脅威と常に向き合う日本において、国民の生命・財産を守るという公共放送NHKの重要な使命を果たすため、正確で迅速な報道に万全を期し、防災・減災につながる情報の提供にいっそう力を入れます。

想定される首都直下地震や、南海トラフ巨大地震などの大規模災害に対応するため、本部のバックアップ機能の整備を進めるとともに、機動的な緊急報道・制作体制を充実します。

2. 日本や世界の課題にグローバルな視点で取り組む報道

日本経済の再生や財政の立て直し、少子高齢社会、世界各地で頻発する紛争、地球規模の自然災害など、日本や世界が取り組むべき課題や危機の深層にグローバルな視点で迫り、多角的に読み解いていきます。

正確・迅速で公平・公正な報道に加えて、掘り下げた報道、深い解説、そして、今まで知ることができなかった事実をビッグデータの解析によって発見するデータジャーナリズムなど、NHKにしかできない報道の強化を図っていきます。

3. NHKが持つ7つの波を生かし、多彩な番組を編成

NHKが持つ地上放送2波、衛星放送2波、音声放送3波を生かし、多彩な番組を編成します。総合テレビジョンでは、“生活に欠かせないチャンネル”として日本そして世界の課題を伝えるニュースや番組を充実するとともに、創造的な文化、教養、娯楽番組などをバランスよく編成します。教育テレビジョンでは、青少年・子ども番組や教養番組を充実・強化するなど、教育放送に求められる役割を着実に果たします。BS1は、スポーツ中継・情報番組を充実し、世界の複雑な動きをひもとき、深く知る国際・経済番組を強化します。BSプレミアムは、知的エンターテインメント番組を充実させ、視聴者層を拡大します。音声放送は、“安心ラジオ”としての機能強化を図るとともに、ネットラジオの普及を踏まえ、幅広い世代の期待に応えます。

平成27年3月、NHKが放送を開始して90周年の節目を迎えます。90年の歴史を踏まえ、放送の未来を見据えた番組を編成します。

4. 東日本大震災からの復興を支援し、課題を掘り下げる番組

東日本大震災からの復興が着実に進みつつある一方で、被災地の人口流出や原子力発電所事故後の様々な課題など、復興を阻む大きな壁も立ちはだかっています。被災地の人たちの心を癒やし、励ます番組を制作するとともに、復興に向け課題を深く掘り下げる番組、復興を成し遂げようとする人々の姿を伝える番組を制作し、活力ある東北の未来につなげます。

災害の映像や復興の記録のアーカイブス化にも引き続き取り組みます。

5. 世界に通用する質の高い番組

世界に通用する質の高い番組を制作することで、海外で放送されるNHKコンテンツを増やし、NHKのブランド力の向上を目指します。深海や宇宙といった前人未至の世界を高感度カメラで映像化する番組や、人間の細胞や進化など、生命の神秘にハイクオリティーCGを駆使して迫る科学ドキュメンタリー番組、伝統的な日本の文化を発信していく番組など、海外放送機関と連携し、高度な制作力・技術力を生かしたインパクトのある大型番組を計画的に制作することで、国内外でNHKの存在感を一段と高めていきます。

6. デジタル時代の新たなサービスの展開

「スーパーハイビジョン」（超高精細映像システム）については、平成28年からの試験放送の開始を目標として、制作ノウハウの蓄積を図ります。放送と通信の連携を目指しスタートした「ハイブリッドキャスト」は、サービスを拡大し、「情報」「教育」「スポーツ」「エンターテインメント」などの分野で番組の開発を行います。「NHKオンデマンド」（有料動画サービス）は、いっそう認知度を高め、利用者を拡大します。

7. 地域の再生、地域活性化への貢献

全国の放送局は、地域の再生や活性化に貢献するため、雇用、観光、教育、医療、福祉、農業などの領域で、地域社会が抱える課題と向き合います。それぞれの地域の特性や視聴者の関心に応じ、地域に密着した番組や連動したイベントを展開します。また、地域の豊かな自然、温かい人々のつながりや暮らしを描いた地域発ドラマを引き続き制作していきます。さらに、地域の情報を掘り起こし、地域の放送局が全国に向けて発信する番組を強化します。

8. サッカーワールドカップ ブラジル大会放送の実施と

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組み

2014 FIFA ワールドカップ ブラジル（平成26年6月12日～7月13日）にあたっては、各放送波の特長を生かし、インターネットやデータ放送などのサービスとも連携しながら、視聴者の高い関心に応えます。スーパーハイビジョンでは、パブリック・ビューイングを実施します。

2020年（平成32年）に開催が決まった東京オリンピック・パラリンピックに向けては、将来を期待される若手選手を発掘する番組や、変貌する東京の姿を通して見えてくる日本の課題に迫る番組など、長期的な視点で追いかけていきます。

9. “人にやさしい” 放送・サービスの拡充

字幕放送・解説放送・手話など “人にやさしい” 放送・サービスの充実に努めます。字幕放送と解説放送は、長期計画に基づき拡充します。特に、ニュースなどの生字幕放送については、地域放送も含め積極的に取り組みます。

以上の重点項目の実施にあたっては、以下のような施策も勘案しながら、創造的で活力に満ちた取材・制作体制を構築します。

- 「国内放送番組編集の基本計画」が放送サービスとして実現されているか、多角的な評価指標を用いた評価・管理を行います。
- 限られた経営資源を効果的・効率的に活用し、ニュースや番組を充実させます。
- 放送倫理やコンプライアンス意識の徹底、人材の育成に力を入れ、確かな情報と質の高い番組の提供に努めます。

各波の編集方針

総合テレビジョン

“生活に欠かせないチャンネル”として、正確な情報を伝え、日本そして世界の課題を考えるニュースや番組を継続・強化します。また、創造的な文化、教養、娯楽番組など、心豊かに暮らせる番組をバランスよく編成しながら、他の波とも戦略的に連携を行い、NHK全体の魅力をいっそう高めます。

(編集のポイント)

1. 現代を深く掘り下げ、見ごたえのある番組を展開
2. 世界や日本の今を読み解くニュース・情報番組を強化
3. 定時番組を充実するとともに、家族や地域の絆を見つめ直し、世代を越えて楽しみ心に残る番組を育てる
4. “これさえあれば”と各世代に必要とされる多彩な番組を制作
5. 地域が主役となり、全国の視聴者が満足できる番組を編成

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養番組20%以上、教育番組10%以上、報道番組20%以上、娯楽番組20%以上を編成します。

教育テレビジョン (Eテレ)

青少年・子どもの健全な育成に資する番組、人々の知的関心に応える番組、文化・芸術の継承・発展に資する番組、福祉番組などを編成し、教育放送に求められる役割を着実に果たします。

(編集のポイント)

1. 「教育」「福祉」「いじめ」「防災」などのテーマに重点的に取り組む
2. 子どもや若い世代に向けた番組の定着を図る
3. 「健康」や「趣味」に関する番組など、中高年向け番組を充実
4. 社会の中核を担う視聴者に向けた教養番組を拡充

〔放送時間〕

- 1日20時間を基本とします。
- 定時でマルチ編成を実施します。
- ワンセグ放送では同じ内容を同時放送しつつ、週末などに独自サービスを行います。

〔放送番組の部門別編成比率〕

- 定時番組について、教養番組15%以上、教育番組75%以上、報道番組若干を編成します。

BS1

「生にこだわるスポーツ」「世界の今を伝える国際情報」「世界の深層に迫る骨太のドキュメンタリー」の3つの柱を軸に、新規視聴者層を開拓する番組に取り組みます。

(編集のポイント)

1. サッカー ワールドカップ ブラジル大会を深く知り、より楽しむための番組を編成
2. 多彩なスポーツ中継ソフトを編成するとともに、スポーツ情報番組を強化
3. 世界の複雑な動きをひもとき、深く知る国際・経済番組を充実
4. 国際共同制作を推進し、高品質なドキュメンタリーを提供
5. 2020年東京オリンピック・パラリンピックを意識する番組を開発

〔放送時間〕

- 1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

- 定時番組について、教養番組20%以上、教育番組10%以上を編成します。

BSプレミアム

幅広い世代が楽しめる“知的エンターテインメントチャンネル”として、「地上波にはない個性」を旗印に、深い満足感を与えるコンテンツの充実と戦略的な編成に努め、新たな視聴者層の獲得を目指します。

(編集のポイント)

1. 従来の視聴者に加え、新たな視聴者層も満足させる知的エンターテインメント番組を拡充
2. 圧倒的な訴求力と話題性をもった大型企画を編成
3. “ニッポン再発見”をテーマに、地域の支援につながる番組の充実

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○特に定めない。

ラジオ第1放送

災害などの緊急時に、生命や暮らしを守る情報を迅速に伝える“安心ラジオ”としての機能強化に引き続き取り組みます。音声の基幹波として、「心に届く」「感動する」「知的な好奇心を刺激する」多彩な番組で、若者世代への定着も図りながら、中高年のニーズに応えます。

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養・教育番組あわせて25%以上、報道番組35%以上、娯楽番組20%以上を編成します。

ラジオ第2放送

“生涯学習波”として、語学番組や学校放送番組、高校講座などの教育番組、幅広いテーマの教養番組などで、多様な知的欲求に応える番組の充実を図ります。あわせて、福祉番組や在日外国人向け番組などにも取り組みます。

〔放送時間〕

○1日19時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養番組15%以上、教育番組65%以上、報道番組10%以上を編成します。

FM放送

“総合音楽波”として、リスナーの多様なニーズに応えます。良質な音楽、個性的なパーソナリティーの語りをメインに新しい音楽文化の発信に努めます。

災害など緊急時には、ラジオ第1放送と連携して機動的な編成を行い、地域情報波としてきめ細かなライフライン情報を提供します。

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養・教育番組あわせて40%以上、報道番組10%以上、娯楽番組25%以上を編成します。